

な業績が認められていくたびか海軍大臣賞を受けられたと聞いている。

昭和34年に塚本君は水路部長に就任され、昭和38年6月末定年退職された。この間水路部長として立派にその職責を果たされたことはもちろんであるが、このほか国際天文連合の暦部の委員として世界天文学の発展に貢献され、また掩蔽観測研究会の有力なメンバーとして測地学の発展にも貢献された。ここで、最も残念に思うのは、昭和35年8月9日に長男隆君を信州戸隠山で不慮

の事故によって亡くされたことである。隆君は東大理学部数学科を卒業後直ちに同大学院修士コースに進まれ、当時数学コースの修士2年に在学中であって、数学科の教官や同僚からその将来を囑目されていた秀才であった。この隆君の死によって受けた塚本君の精神的ショックは非常に大きく、これが塚本君の健康を害し、彼の死を早めた原因でないかとさえ考えられるのである。塚本君の死に直面し、私ども級友としては心淋しく感ずる。心から塚本君の霊よ安かれと祈る。

塚本裕四郎氏略歴

- 明治34年5月17日 福岡県福岡市上名島町に塚本兎三郎氏(弁護士・炭鉱経営)の4男として誕生
- 大正15年3月31日 東京帝国大学理学部天文学科卒業
- 昭和2年3月31日 同上大学院終了
- 4月26日 海軍水路部編暦課嘱託
- 12月27日 海軍技師に任ぜられる
- 14年3月23日 勲六等瑞宝章を授けられる
- 15年4月16日 曆推算法の改良に関する考案により海軍大臣より表彰
- 4月29日 勲五等瑞宝章および一時賜金を授けられる
- 18年11月10日 水路部第2部第4課長に補せられる
- 19年1月31日 学術研究会議第3および第5研究班員を命ぜられる
- 6月29日 航空天測表の考案により海軍大臣より表彰
- 7月14日 学術研究会議天文学研究連絡委員会委員を命ぜられる
- 20年11月29日 水路部第一部編暦課長に補せられる
- 21年2月1日 水路部第一部長を命ぜられる
- 23年5月1日 海上保安庁水路局編暦課長を命ぜられる
- 26年6月1日 運輸省永年勤続者として表彰される
- 7月20日 水圧式測深機研究の功績により運輸大臣より表彰
- 30年2月22日 日本学術会議地球物理学研究連絡委員会委員となる
- 31年11月1日 学術奨励審議会専門委員になる
- 32年6月1日 星食予報器の改良により運輸大臣より表彰
- 34年4月1日 水路部長になる
- 5月29日 原子力委員会専門委員になる
- 34年6月1日 日本学術会議海洋学研究連絡委員会委員になる
- 8月1日 測地審議会委員になる
- 35年10月1日 日本学術会議海洋学特別委員会委員になる
- 12月1日 日本学術会議太平洋学術研究連絡委員会委員になる
- 36年6月30日 宇宙開発審議会専門委員になる
- 38年7月3日 定年退職
- 40年12月20日 従三位勲三等に叙し旭日中授章を授けられる。
- 同日 21時15分 肺性心のため東京都世田谷区の日産厚生会玉川病院で逝去

塚本裕四郎氏論文目録

- 昭和14年7月, 水路要報第18年7号, 天体と陸標との夾角による陸標距離決定法○昭和14年10月, 水路要報第18年10号, 山頂仰角法について○昭和15年1月, 水路要報第19年1号, 天測計算の簡易化についての一考察○昭和15年2月, 水路要報第19年2号, 推定位置用天測計算表の一私案○昭和15年2月, 水路部報告 第9巻, 異星等高度経度法および表(北緯 $0^{\circ} \sim 20^{\circ}$) 英文 ○昭和15年7月, 水路要報第19年7号, 仮定位置天測表の吟味および私案○昭和15年9月, 水路要報第19年9号, 山頂仰角法の一般化とこれに適する図表○昭和16年, 水路要報第20年増刊号, 艦船位置測定法の基礎論, ○昭和16年, 水路要報第20年増刊号, 目標間の夾角の測定による位置の決定法○昭和16年10月, 水路部, 海上屈折現象ノ解釈付視達距離改正表○昭和17年11月, 水路部報告 第10巻, 異星等高度経度法および表(南緯 $0^{\circ} \sim 20^{\circ}$) ○昭和17年12月, 水路部, 視達距離改正表(第2次案) ○昭和18年, 水路要報第22年増刊号, 夾角天測法 ○昭和19年1月, 水路要報第23年1号, 天測法略説○昭和24年8月, 水路要報13号, 夾角法について○昭和24年9月, 日本航海学会誌 第1号 夾角法について○昭和25年3月, 日本航海学会誌 第2号, 海上における光の屈折現象○昭和25年4月, 水路要報 17号, 天文航法の説明並びに計算の統一について○昭和25年6月, 水路要報18号, 夏季神子元島付近における眼高差調査について○昭和26年6月, 日本航海学会誌 第3号, 水圧による深さと波の測定法(鈴木裕一と共著) ○昭和26年8月, 水路要報 25号, 水路部の思い出○昭和26年9月, 日本航海学会誌 第4・5号合併号, 船のローリングと波の同時自記法○昭和26年10月, 水路要報 26号, 水圧による水深と波高の測定法○昭和29年4月, 日本航海学会誌 第10号, 第5海洋丸漂流物の鑑定○昭和29年4月, 水路要報 41号, 第5海洋丸漂流物の鑑定○昭和29年4月, 水路要報 41号, 昭和29年北極方位角表○昭和29年6月, 水路要報42号, 聴音による底質の判定について○昭和31年11月, 日本航海学会誌 第15号, 海底が泥の場合の水深について○昭和32年3月, 水路要報 52号, 日食観測の目的および計画の概要(ベトナム) ○昭和32年6月, 日本航海学会誌 第16号, 高度方位暦について○昭和32年12月, 日本航海学会誌 第17号, 海図の水深について○昭和36年2月, 日本航海学会誌 第24号, 本邦近海の磁針偏差について(歌代慎吉と共著) ○昭和38年6月, 日本航海学会誌 第29号, 正しい海図(港泊図)のあり方(川上喜代四と共著)